

日程	学校名	プログラム	参加イベント名
2026年 2/13(金)	関西国際学園 中高等部	PYP/MYP/DP	授業参観・スクールツアー



学校見学で観察した授業と教育環境



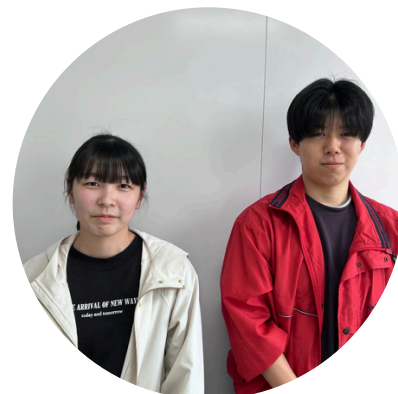
関西国際学園を訪問し、初等部の学校紹介とスクールツアー、中高等部の授業見学を行った。MYPでは国語の短歌の授業やDramaの授業を見学した。Dramaの授業では、少人数のグループに分かれて英語のセリフの練習をしていた。英語のNegotiationの授業では、生徒と教師が1対1で英語の会話を行っていた。音楽の授業ではバイオリンやピアノの演奏練習も行われていた。また、DPコーディネーターからIBや学校の歴史、CISについて説明を受け、施設や学習環境についても見学した。

生徒主体の学びから得た気づき

見学を通して、生徒主体の教育が学校全体で実践されていることが印象的だった。授業では、生徒がグループで主体的に活動したり、教師と対話しながら学ぶ場面が多く見られた。Negotiationの授業では、教師と生徒が1対1で英語で会話を続ける形式がとられており、実践的なコミュニケーション力を育てる工夫がされていると感じた。また、学校では生徒の意見を取り入れる姿勢が強く、給食の取り組みやフードロス削減の活動にも生徒が関わっていると聞いた。さらに、IBを単に導入するのではなく、生徒の成長を第一に考えて独自のカリキュラムを工夫している点が印象的だった。説明の中では設立者である中村氏の理念について何度も言及があり、学校がその理念と強いリーダーシップのもとで運営されているという印象を受けた。

今後の教育観への活かし方

今回の見学を通して、生徒が主体的に学ぶ環境づくりの重要性を学んだ。将来教育に関わる際には、生徒一人ひとりの意見や個性を尊重し、対話を通して学びを深められる環境をつくるのが大切だと感じた。また、既存の制度にとらわれず、生徒の成長を第一に考えて教育を柔軟に改善していく姿勢を大切にしていきたい。



塚本華琳、伊藤健隼
(都留文科大学 国際教育学科 2年)